

私と震災  
宝塚市立光が丘中学校  
一年三組  
まさか、あんな大きな地震が来るなんて、誰も想像しなかつただろう。一月十七日、午前五時四十六分「ゴーン」と言う音と同時に家がゆれた。私は何が起きたのかさっぱり分かりなかつた。ただ、耳にはバタン、ガシヤンと言う音が何回も聞こえてきた。ゆれがおさまつたかと思つて部屋の中を見るとまだうす暗くてよく見えなかつた。すると、すぐ「友紀、佳織大丈夫か!」と父の声が聞こえた。部屋から出ようとするとタンスが倒れていてドアが開かない。私はその倒れたタンスをどけた。おびく重いはずなのに簡単にいけりれた。心配する父の姿が見えた。そのころの父はその前の年の十二月から寝たきりでよく腰を痛めていて一人がトイシにも行けずお風呂にも入れない状態であつたにもかかわりお腰が痛いのもがまんし、私達のことを心

配して部屋まで来てくれた。私は父のあんな姿を初めて見た。朝は学校にも行けなかつた。下に降りて見ると食器はほとんど割れていて使えなくなつていた。母はそれを一生けんめいかたづけしていた。そんな姿を見てみると、手伝わおにはいりなかつた。私達の部屋に行くところには倒れているし、本はみんな下におちていて、机は動いていた。まだ家がゆれている気がしてじわかつた。夜は早めにご飯を食べた。カスがないのであたたかい物が食べられなかつた。みんなでこたつに入ると電気もないのに家族全員の気持ちが一つになつた。もうでなんだかあたたかく感じた。その夜は全然眠れなかつた。ラジオを聞いていると、被害の大きさや、死者の人数がだんだん増えていった。とても信じられなかつた。私たちが片が一つしなかつたのが不思議だと思つた。私も妹も、水をもらいに何時間も並んだり、母と一緒に歩いて食べ物を持ち帰るのに、両手にも荷物を持って何時間もかかつて買い

物に行ったりした。私でも家族のためにはごく役に立っていると言う事がとてもうれしかった。電気が通るようになってテレビを見るのと、ボランテイヤの人達がいろんな所から、たくさん来ていることに驚いた。最近、福井県の近くの海でおきた重油流出事件でもたくさんさんのボランテイヤの人達が油を取り除こうと集まっている。一人が出きる力は小さいかもしれないけれど、私ももっと身近かな所から自分が出きることも見つけ出して行こうと思

う。私はこの阪神大震災でいろんな家族が見れたと思う。あの時の父の姿は一生私の気になり離れることはないだろう。